皆さまの募金で生まれた笑顔

「とても嬉しいです！長く使えるよう大切に使います」

熊本市立豊田小学校
器楽部の皆さん

「今、みんなと食べる時間が貴重だと思いました」

益城町立益城中央小学校
小６女子

「熊本の夏は暑いので、授業中も運動会の練習中も大活躍です」

御船町立御船小学校
大脇為久 校長

「給食の支援、本当にありがとうございます」

益城町教育委員会
森永好誠教育長

「外で遊ぶの久し振り！ 気持ちいい！」

プレイパーク
小学生男子

協力企業一覧

（一部のみ / 五十音順）

株式会社エポスカード
生活協同組合パルシステム東京
積水化学工業株式会社
株式会社taishoji
株式会社タイセイ
株式会社チュチュアンナ
公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団
三菱製鋼株式会社
山崎製パン株式会社

株式会社ウチヤマホールディングス

UCHIYAMA HOLDINGS
ウチヤマホールディングス グループ
東証一部上場（証券コード：6059）

被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。同志の方々と共に行った支援が、少しでも熊本の皆さまのお役に立てたことに感謝致します。早期復興を祈っております。

西川産業株式会社

東京西川

この度の「平成 28 年熊本地震」により被災されました皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。寝装寝具やタオルの支援物資が皆さまの一日も早い復旧の一助となれば幸いです。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
熊本地震緊急支援 活動レポート

2016年９月発行
発行　特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2　ハーモニータワー 3F
TEL：03-5334-5350（代表） FAX：03-5334-5359
HP：www.worldvision.jp
郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

World Vision
この子を救う。未来を救う。

熊本地震緊急支援 活動レポート

熊本地震で被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。
今回の支援活動を始める時に願っていたのは、被災した子どもたちの笑顔を一刻も早く回復するため、ワールド・ビジョン・ジャパンらしい支援を、きめ細かく迅速に行うことでした。そのためには、他団体やボランティア等との連携が鍵になりますが、これは、東日本大震災での経験から学んだことでした。
熊本地震では、物資の手配やその輸送が難しい時に、北九州市の株式会社ウチヤマホールディングス様が率先してその任を担ってくださいました。ワールド・ビジョン・ジャパンらしい子どもへの支援を計画したとき、益城町総合体育館を指定管理者として運営されていた熊本 YMCA 様が、施設内のスペースで活動させてくださいました。また九州キリスト災害支援センター様との連携では、炊き出しや子ども向けイベントのお手伝いもできました。更には教育委員会との連携で、被災した学校への支援も実現しました。
被害の大きさを考えると足りない所も多い支援内容ですが、地元の企業・団体との協働で私たちらしい支援ができたことは、新たな学びとなりました。この経験・学びを次に活かすことをお約束するとともに、多くのご支援をくださった皆さまに心より感謝申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・理事局長
片山 信彦

3本柱を軸に活動、のべ約16,400人に支援を届けました

ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）は、地震発生３日後の４月17日に現地入りし、活動を開始しました。被災者のニーズに沿うこと、行政の手が届かないニーズに対応すること、子どもに寄り添うことを目指し、①物資支援、②子ども支援、③教会を通じた支援の３本柱の活動を展開。９月30日までの活動期間中、のべ約16,400人に支援を届けました。

1 物資支援（4月17日～6月7日）

４月17日、被害が最も大きかった地域の一つである益城町に入った先遣隊が、避難者が集まる総合体育館に、飲料や衛生用品、紙食器等を届けました。これを皮切りに、続々と寄せられるニーズに応えるべく、毛布、バスタオル、高齢者用長ズボン等を、熊本市や益城町の避難所を中心に配布。物流が混乱していた時期でしたが、日頃からWVJを支援してくださっている企業のご協力により、迅速な対応が可能となりました。

5月後半からは、暑さをやわらげるクールタオルや、避難所の生活環境を改善するマットレスを支援する等、物資支援全体では、のべ4,636人に物資を届けました。

４月17日の物資配布の様子

益城町総合体育館に届けたマットレス

2 子ども支援

(1)　心のケアと遊び場運営（4月21日～5月31日）

益城町総合体育館の避難所運営を委託された熊本YMCAとともに、子どもたちが自由に集い、安心して遊べる屋内の「プレイルーム」と屋外の「プレイパーク」を共同運営しました。期間中、のべ2,330人の子どもたちが利用しました。

「子どもが元気に遊んでいる姿を見て、安心しました」「預かってもらっている間、崩れた家の片付けができるので有難いです」等、保護者から多くの感謝の言葉をいただきました。６月１日からは、地元の団体に運営を引き継ぎ、活動が続けられています。

また、災害により心理的ストレスを抱えた子どもへの接し方（心理的応急処置：Psychological First Aid）について、WVJの専門スタッフが講師となり研修を実施。知見を地元の関係者に継承しています。

(2)　学校再開支援（5月16日～9月30日）

学校の再開は、子どもたちが日常を取り戻す大きな一歩になります。WVJは、学校が抱えるニーズを独自に調査し、再開に必要な支援を届けました。体育館での授業を余儀なくされた中学校へはパーティション（間仕切り）、余震への備えが不足していた保育所へは防災備品、音楽活動が盛んな学校へは楽器等、教育現場のニーズにきめ細やかに応えました。

また、給食センターが被災した益城町では、全公立小中学校に対して給食支援を実施しました。子どもたちに少しでも栄養価の高い食事を届け、給食を楽しみにしてもらえるよう、給食費用の一部を支援。学校再開から１週間後の５月16日から、パンと牛乳にチーズやゼリー等の補助食品３品が追加される簡易給食が実現しました。6月1日からは、より栄養価の高い弁当給食に移行し、夏休みまで支援を継続しました。

これらの学校再開支援では、熊本市、益城町、西原村で、9,009人に支援を届けました。

プレイルームでスタッフと遊ぶ子どもたち

世界の紛争・災害地での子どもの保護を専門とするスタッフが研修を実施

調理器具を支援した保育所では、温かい昼食が出せるように

支援したパーティションで体育館を区切り、クラスごとに授業する中学校

3 教会を通じた支援（4月26日～8月3日）

キリスト教精神に基づいて活動する団体として、キリスト教会と連携した活動を実施しました。被災地域と教会を支援するために設立された九州キリスト災害支援センターの協力団体として、活動拠点に東日本大震災の復興支援経験をもつスタッフを派遣。病院での炊き出しや、こどもの日イベントの運営等をサポートしました。夏休みには、親子バスツアーを実施し、約400名の方々に楽しんでいただきました。

こどもの日イベントには、60名以上の子どもたちが集まりました

バスツアーでは上天草の水族館を訪問。ゲストのさかなクン（手前右）に子どもたちは大喜び

会計報告

熊本地震緊急支援事業
正味財産増減の状況

2016年4月15日より2016年8月31日まで（単位：千円）

経常収益

受取寄付金	58,329
受取その他募金・寄付金	53,129
受取その他募金・寄付金（物品）	5,200
経常収益合計　(A)	58,329

経常費用

事業費	55,226
地域開発援助事業費	52,355
地域開発援助事業費	50,614
物資支援	26,754
子ども支援	16,664
教会を通じた支援	2,968
現地事業運営管理費等	4,228
地域開発援助事業管理費	1,741
啓発教育費	2,871
各種啓発教育費	1,440
啓発教育事業管理費	1,431
経常費用合計 (B)	55,226

正味財産増減額　(A)-(B)	3,103
正味財産残高	3,103

※残額は、熊本地震緊急支援（主に「子ども支援」活動）のために、９月１日以降支出いたします。